

次に、15 番末藤議員の質問を許可いたします。御登壇を求めます。15 番末藤議員（発言する者あり）

静かに。

#### ○15 番（末藤正幸君）〔登壇〕

（全般モニター使用）こんにちは。昼一番の末藤でございます。今、議長から登壇の許可をいただきましたので、15 番末藤正幸の一般質問を開始させていただきます。きのうはですね中秋の名月。ちょっと空をのぞいたら本当にきれいな満月でした。本当にことしの夏はなく、梅雨があって、秋に入ったんじゃないかなろうかというくらいで、まあ暑さとしては結構しのげました。そしてけさ朝早くですね、オープンテニス、全米オープンテニスがあっただけですが、優勝を見て私もここにこようかと思いましたが残念ながら準優勝でございました。

そういうことで、ただいまから質問を開始したいと思います。

きょうの質問の項目は、まず1番目に教育について。それから2番目に政策一般ということで、教育はまず1番目にプログラミング教育、それから2番目に官民一体教育、それから3番目にネット犯罪予防と、こう書いてありますが、これはまあ通信アプリですね。こういうようなものに使ったいじめとかですね、そういうものの防止対策ですね。

それから4番目に全国学力テストの公表というようなことをテーマにしたいと思います。

それから2番目の政策一般。まず学童保育。これは指導員の方の待遇っていいんでしょうか処遇についてちょっとお尋ねをしたい。

次に駅の駐輪場の維持管理と道路関係ということで挙げさせていただいております。

それでは1番初めのプログラミング教育について質問させていただきたいと思います。

このプログラミング教育、これはですね、6月23日に議会事務局からファックスが皆さんにも届いたと思いますが、ファックスが流れてきました。まず武雄市、それからディー・エヌ・エー、東洋大学、産学官連携で、小学校1年生に向けてプログラミング実証研究プロジェクト記者発表というようなことですね、6月25日に行いますというファックスが流れてまいりました。このことをですね、私このプログラミングというのは非常にこう難しい分野、専門的な分野ということで、私もパソコンを取り組んでからですね、非常にそういうふうに思っておりました。プログラミングの書き方によって、図面を引いたりするときの1本線が左に向いたり右に向いたりというようなですね、そういうことをちょっと教わったこともありますが、非常に難しいところでした。まあそういうようなことを今、本当に世の中はですね、コンピューター時代、すべてのものが今コンピューターで制御されている。もう今ほとんど自動車の運転も無人化する、これもコンピューターですね。それから本当にロケットの制御、それからものをつくるほとんどが、もうコンピューターによる制御。そのコンピューターをそれぞれのものに合うためにプログラムを書き直し組んで、そのコンピューターを動かしていく。そういうのがこのコンピューターのプログラミングだと思って

おりました。これがですね、やはり今度武雄市で取り組むということでびっくりしたわけですが、もう本当にこういう時代このプログラミングはですね、本当に小さいときからするべきだろうと本当に思うわけですね。それが今度、山内西小学校で開始されるっちゅうことで非常にこう期待をしておるところでございます。そして本当にこの1年生からですね、こういう授業とか、授業になるのかならないのかはちょっとはつきりはわかりませんが、そういうようなことを取り組んで、そしてそれを経験してですね、社会に出たときに本当にこう次の時代を背負う人材になるのかなというふうに、こう期待をしているところでございます。そのプログラミングのですね、この中身ということで私も6月25日の当日、西小学校の会場に出向いて記者発表の説明を聞いたわけですが、まず西小学校で取り組んで西小学校の1年生を対象にするんだということで説明がありました。

まず、山内西小学校でこのプログラミング教育の実証研究を行うようになったですね、いきさつをまずお尋ねしたいと思います。よろしく申し上げます。

**○議長（杉原豊喜君）**

浦郷教育長

**○浦郷教育長〔登壇〕**

プログラミング教育をなぜ山内西小学校で始めたのかということでございますが、御存知のとおり今、各市内、各学校、いろんな研究等も平行して行っておりまして、それから対象とする子どもたちの人数、それから条件としてですね、学校のその後半、10月以降になってくるわけですけれども、いろんな行事等の関係、いろんなこと勘案しましてですね、山内西小でお願いできないかというような御相談をしまして、始めてるという状況でございます。

**○議長（杉原豊喜君）**

15番末藤議員

**○15番（末藤正幸君）〔登壇〕**

この画像は、その実証研究のための記者会見があったときの写真でございます。そういうことですね、いろいろ説明を聞き、わかったところはわかるんですけども、わからないところもありましたのでここで2つ3つ、ちょっと質問させていただきたいと思います。これはそのときの新聞記事ですね。小1にプログラミング教育、全国初武雄市10月から、ということで記事が載せられたわけでございます。これでそのときの中にですね、小学校1年生を対象にして取り組むということで聞き及びました。それで私もそういうことを聞いて、あるテレビを見よったら小学生がですね、ロボット、これを組み立てて、自分で組み立ててそれを家族と一緒に、保護者さんと一緒に組み立てをしておりました。そして保護者も一緒に手伝ってですね、設計図っていいでしょうか、あるいは組み立て方を見ながらつくっておられてですね、それで最後にそのつくりあげたロボットっていいでしょうかね、ちょっと簡単なロボットです。それを動かして時間を競うとかですね、何らかを動かして時間を競う、そ

うものをテレビで発表されております。そして、その動かすために何をするかというプログラミングなんですよね。何かブロックを動かして、画面を見ながら動かして3秒間動くのを、前進するのを、5秒間前進させるんだとか、左へ向けるんだ、上げるんだとかいうのを、プログラミングを変えて、その人に勝つようにつくりあげるわけですね。大人の方はやはり、保護者の方はですね、それをプログラミングのほうになると、もう全然だめと。組み立てまではよかばってん、そのあとができないっていうようなことですね、放送をやっておりました。非常にそういうことで子どもさんもそういうようなことを体験されている時代になったなということで思っております。まあそういうことでこの西小学校で取り組まれる、これ小学校1年生を限定してということでもちょっと聞きましたが、なぜ1年生なのかその辺をお尋ねしたいと思います。

**○議長（杉原豊喜君）**

浦郷教育長

**○浦郷教育長〔登壇〕**

プログラミング教育は教育課程内では中学校の3年生に実は出てくるわけで、技術家庭科ですね。そしてそれは要するに、まさにコンピューターのプログラミングになるわけですが、今度、小1に行おうとしておりますプログラミングは、そこから真っすぐプログラマーの養成につながるわけじゃ当然ないわけでありまして、先ほどの発表のときであります、(モニター使用) わかりやすいようにしますと、まあちょっと見えにくいかわかりませんが、例えばですね、この下の画像でありますけれども、これは子どもの書いた登場人物であります。

仮にですね、まあ実際にやるのはこれと少し変わってくるんだと思うんですけども、左のほうにですね、例えば矢印の方向を向くとかですね、反対を向く、右に回る、左に回る、タッチされたほうを向く、止まる、画面の中に戻すとか1秒待つとかですね、こういう指示を出せるわけであります。自分でこういうプログラムを組み合わせることができると。右側のほうに重なったのがありますが、そこにずっと右にスライドして持っていくと、そのとおりその登場人物が動くというような形の仕組みができるわけですね。

そうしますと、現在山内西小学校の1年生40名ほどおりますけれども、40通りの自分なりのいろんな組み合わせでまさにプログラミングができるというような形で。

トータルとして考えまして小学校の1年生でこういう勉強をする機会というのは実はあまりないと振り返りますと思うんですね。そうしますとこういう組み立て方、あるいは自分はこのやり方という、いろんな言葉で言いますと論理性であったり思考力であったり創造性であったり、いろんな要素がそこには含まれてくるわけです。これを1年生、これだとですね1年生で十分可能なわけでありまして、その限られた回数、時間の中でやると。時間的なこと等も含めましてですね、1年生からやろうということになったということでご

ざいます。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

ちょっと補足しますね。

日本語っていう問題があるんですね。日本語は非常にあいまいで、例えばおつかいを出すと。例えば近くのスーパーマーケットで適当に野菜ば買うてきてねと、いうおつかいがあったとするじゃないですか。これパソコン動かないんですね、これだと。まず店を特定しなきゃいけない。あるいはその適当というのは数量を特定しなきゃいけない。あるいは野菜を特定しなきゃいけない。そして何よりもあなたがと、いうことを特定しちゃいけない。そういう意味で言うと、このプログラミング言語っていうのは、先ほど教育長からあったように論理的な思考をきちんと身につけさせるには最良の手段だと今言われているんですね。です。ですので私は少なくとも、小学校で英語教育がもう始まったのかな、始まっているんですが、……（「まあね、そうだね」と呼ぶ者あり）これね英語よりはね、こっちのほうが先なんです。だから日本語のあいまいさ、これはいい部分もありますよ。いい部分もあるけれども、やはりそのプログラミング言語で論理的な厳密性ですよ。とか、時系列もそうなんですけれども、それを平仮名、あるいは日本語の言語体系が直感的、体感的にわかっているのが大体小学校の1年生の1学期が終わった段階なんです。よ。（「おお」と呼ぶ者あり）ですので、何も小学校の1年生の1学期からやらないわけですよ。まず日本語の言語体感が入ってくると、体感が。（「はい」と呼ぶ者あり）その上でプログラミング言語をやるっていうのは1番効果的というふうに言われているので、私自身は1年の後半学期からやるというのは、基本的にそういう方向性です。

社会の流れからすると、去年の秋にオバマ大統領が全米の教育プログラムの中で、ゲームをやるほうじゃなくてゲームをつくるほうに回ろうよということ。それと圧倒的に、プログラミングのやる人たちが今、不足しているんですね、不足していると。これ日本の閣議決定でも同じことを言われているんです、日本の閣議決定でも。

そういった意味から教育長は直結しないっていうふうに言ってますけれど、僕はもう直結していいと思ってるんですよ。それこそ私たちが唱えている魅力的な飯が食える大人です。だから昔で言う、そろばん、今でいうパソコン。そして今後、子どもたちが20代、もう今スマホが多分1人1台になってきたときに、そうなったときに圧倒的にプログラミングをやる人たちが、エンジニアがね、少なくなるっていったときに、それはもうものすごく僕はいい意味での武器になると思っていますので、僕は直結の方向でぜひ考えていきたい。まあ、今回教育長と違います、はい。

○議長（杉原豊喜君）

15 番末藤議員

○15 番（末藤正幸君）〔登壇〕

はい、わかりました。非常によくわかりました。やはりこれも一つのプログラムかも知れませんが、やはり子どもたちが取り組みやすいようによく出てきているものだと思っております。やはりそういうことで山内西小学校の1年生は今からこれを取り組んでそれを体感して、今からまた自分のそういうふうな技術に結びつけていくんだらうと思います。

そのときに、聞きよったら3月に今いうディー・エヌ・エーがこのプログラムを作成し、また東洋大学でそれを検証して結果を出すっていいんでしょうか検証して、検証ですよ、実験台じゃありませんから。子どもさんはね実験台ではありません。本当にこういうふうに一生涯懸命学力に取り組んでそして検証し、またその社会に役立っていく、そういうことを今からやられると思うわけでございます。そういうことで非常にいいことを取り組んでいらっしゃると思うわけですよ、本当にこのコンピューター時代。

そういうふうな中でやはり山内西小学校、本当に恵まれていると思いますが、やはりほかの学校でもね、これ希望されたときにどう対応されるのか。来年度に取り組まれるのか、またせつかく1年生で学んだのを2年生、3年生と持ち上がって勉強していくのか、その辺はどういうお考えなのかお尋ねをいたします。

○議長（杉原豊喜君）

浦郷教育長

○浦郷教育長〔登壇〕

文部科学省ではですね、これをプログラミンという名称で実際に同様に初等中等教育で進めるプログラムをつくっておられましてですね、非常に突飛な言葉で受けとめられたかはわかりませんが、実際にはそういうことでこれからも進んでいく方向であるということはおもう間違いのないと思っております。

お尋ねの、ちょうど市長からも話をしてもらいましたように、1年の後半からスタートすると、これはやっぱり意味があるわけですね。ですから1年から2年生へという方向は考えております。ただしかし、新しい1年生もやっぱり当初からやなくて、するとしてもやっぱり10月からなるうというような思いでおります。

ほかの学校へということですね、ディー・エヌ・エーさんとの協議等もありますし、また今お話をしてもらいましたけれども、その検証作業も片方でしてもらうわけでありまして、そういう経過を見ながらですね決めていきたいと、現時点ではそういうふうにお思います。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

ちょっと教育長の答弁に補足しますけどね、僕は1年生が終わったときに1年生に限定する必要はないと思っています。ですので、せっかくこれが年にだんだん根っこが広がっていけば、これはちょっと時間かかるかもしれませんが2年生、3年生、4年生というふうに広げると。

それと、あと当該小学校についても、今は山内西、まあ校長の理解が非常に高いので山内西なんですけれども、各校長がiPadを広げたようにね、各校長がぜひやりたいということがあればね、これはまあディー・エヌ・エーさんとも、先ほど教育長が答弁申し上げたように協議する必要があると思いますが、やっぱり広げていくと、裾野を広げていくというのは大事だと思いますので、できればこう広がるようにね、していきたいなというふうに思っております。そういった意味でこれは非常に楽しみです。

山内西小学校が校長先生と教育長も非常に理解がありますので、その検証の過程っていうのは非常に楽しみですし、これが多分もう武雄にとどまらないと思うんですね。これがいろんな地方に広がっていくこと、特に公教育の中で広がっていくことが恐らく望まれていると思いますので、そういう意味でのディー・エヌ・エーさんと組んで、あとからまた東洋大学の松原先生とも当然御相談しながらね、ある意味日本のこの面に関してもロールモデルになれるように我々としても議会によく御指導をいただきながら進めてまいりたいと考えております。

#### ○議長（杉原豊喜君）

15 番末藤議員

#### ○15 番（末藤正幸君）〔登壇〕

はい、どうもありがとうございます。本当にですね、3月はいいい検証ができるようにですね、そしていい結果が出てまた次も進めていかれるように私も本当に期待をしているところでございます。

それでは次の質問に入らせてもらいます。

次に、官民一体教育。これは今ですね、官民一体教育を創設するというようなことで27年度から始めるということで、今武内小学校をモデル校に指定して実証、研修、それから公開モデル授業など積極的に今取り組んでいただいております。

昨日の一般質問の答弁の中でもですね、来年4月から開校するところが、2校からひよっとしたら3校になるのではないかなという答弁も、あっております。

やはり、この今武内の小学校の先生方は、今こういうふうにして研修も行われておるといいます。それでですね、このキーを握る、ちょっと2、3日前の新聞でしたかね、それも載ってございましたけど、私もそれを今回質問して挙げとったわけですが、こうやっぱり先生がですね、そこを授業を受け持つ先生が1番ポイントになるんじゃないかなというわけでございます。

やはり先生方今まで、自分が学校の先生になろうとして、そして学校の先生になって、いろいろ授業のことを先輩から学び、また自分も勉強し、こういうことにして学校の授業をするんだというようなことでなられてきたと思うんですが、そこの中でですね、ちょっとこう見た目を変えた、そういう民間からのあれも入ったりとかしてですね、それでまた今までの学習指導とも若干違ったようなところも入ってくるかもわかりません。

そういうような中でですね、先生たちがこのことをどういうふうに理解されているのか、またこのことをですね、武内のこの新聞等で見ると、先生たちは非常に理解をしておられるのかなと思いますが、そういうふうに他校に広まったときにですね、先生方の御理解とかですね、協力、そういうものがどういうふうに得られるもんかなあということで、非常に危惧をいたしましたわけでございます。

その辺の状況をお知らせください。

**○議長（杉原豊喜君）**

浦郷教育長

**○浦郷教育長〔登壇〕**

説明会等を行かせていただきまして話します中で、先生方のその今の一生懸命頑張ってもらっている先生方でだめなのかという論議がございます。しかし全くそうは思っておりません。

それで実はこの前、総務文教常任委員会からの御紹介も、お話も、御推薦もありましてですね、長野県の北相木村の北相木小学校の教頭先生と研究主任の先生に武雄に実際来ていただきましてですね、話も直接聞くことができたわけであります。

冒頭言われたのはですね、やっぱり一緒にできるのかということ、確かに思ったということをおっしゃるわけですね。

しかし、そういう中でですね、やっぱり子どもたちが非常に生き生きとなったという成果をですね、話されると同時にその意味というのも話していただいたわけでございます。

また、今、出していただいておりますようにですね、高濱代表と直接これからの指導のあり方について、研修会をしてもらうという中で学んでいただいと。これまでも、塾の指導法に学ぶというのはいろんな面であつていたわけですね。これは進学指導のやり方とか、そういうのを塾に学びにいくと、指導方法ですね。そういう例は多々あったわけで、しかしもう御存知のとおり花まる学習会のその理念っていうのは非常に深いわけでありまして、一人一人の子どもたちを本当に生き生きと育てるといふそういう意味でですね、新たな視点を先生方に与えてもらうんじゃないか。

そして、結論としては、やはり目の前の子どもたちに合った方法を一緒に見つけていきたいと思いますということでもありますので、先生方もですね、本当に自分のこれまでの歩みと、そしてまた新しい指導法をですね、兼ね備えた、さらに磨きのかかった指導力を深めた先生にな

っていただくものというふうに期待をいたしておりまして、これまでモデル校として進めてもらってる武内小学校の先生方の受けとめ方も、そういう思いで受けとめていただいているというふうに思っております。

**○議長（杉原豊喜君）**

樋渡市長

**○樋渡市長〔登壇〕**

私は教育長の答弁に補足します。

教育長は先ほど武内小学校の話をされて、それはそのとおりなんですけど、実際この前、佐賀新聞が3回にわたってね、……（「そうそうそう」と呼ぶ者あり）書いた中で、ちょっとごめんなさい、今記事を持ってないんで正確には引用できないんですが、武内小学校以外の先生のことを書いてあって不安をお持ちだと、それはそうなんですよ。当事者じゃない人が不安を持つっていうのは当たり前の話で、何でこんなのが記事になるかなと思ってたんですけど、それは当たり前の話なんです。ですので、今武内小学校が中心となっていてやることが、今度の官民一体学校の当該指定校ですよ、指定校並びに、多分その2年後、3年後っていうことに、またいろんな小学校が入ってくると思うんですよ。そのときにいい、これもロールモデルになれるようにね、要するに、応用可能な他の小学校が官民一体学校に入ってきてやすいようなね、ものを、今、実は代田先生とも教育長とも話してて、実際武内小学校の場合は、地元の古川盛義議員さんもいらっしゃいますので、地域を挙げて今考えてるところなんです。

ですので、知らない人がこう不安がるっていうのはそれは当たり前のことで、知った方がね、不安にならないようにしていくのがそれは我々の役割だと、教育委員会と我々の役割だと思っていますので、そういうことで不安払拭に努めてまいりたいと、このように考えております。

**○議長（杉原豊喜君）**

15番末藤議員

**○15番（末藤正幸君）〔登壇〕**

今の答弁聞いて安心をしましたが、本当にその最前線で行われるのはもう先生方ですから、ぜひそういうところはですね、先生の誤解のなきようにしていただいでですよ、ぜひともこの官民一体教育、これがですね、武雄がロールモデルになって全国に広まるようにいけばと思っておりますので、よろしく願いいたします。

次に行きます。次にネット犯罪予防。

これはトラブル防止というようなことを、括弧して書いておりますが、今ですね、スマホとかそういうのに使って、それがいじめにつながるとかですね、非常にこう記事が多くなったように思います。

これはですねちょっとスマホが、この前の何ですか、全国学力テストの公開の記事の下に載っていた記事でございます。皆さんも見られたと思いますが、スマホが学力に影響というようなことですね、時間、まあグラフを載せて使用時間と成績のこう、何ですか悪いほうの順番をつけたような記事が載っておりました。

当然、スマホをいつも使ってるとか、ゲーム機を使っているとなるとですね、当然成績が悪くなるのかなっちゃうのは誰でもわかるわけでございますが、そういうふうなことですね、そのスマホは原則、今の武雄市の何ですか、小学校、中学校は所持禁止というふうになってはおると思います。そういうことでこのこういう時間、ゲーム機や、ああいう何ですか、ポータブル音楽機とかですね、そういうようなものを家でどれくらい使ったかとか、そういうふうなこれにあったようなその時間、使用時間、こういうような調査をされたかどうかお尋ねをします。そしてまた、それをされたならば、そういう時間によっての、その指導とかどういふふうに行っておられるのか2点お尋ねをしたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

浦郷教育長

○浦郷教育長〔登壇〕

今お話にありましたように、スマートフォンや携帯などの使用について、確かに憂慮いたしております。

もう今、出しているスマホとか学力に影響するというのは、当然する時間が長いほど学習時間短くなるわけで、当然のことでありまして、ですから、今家庭とか地域との連携をお願いしている理由も実はそこにもあるわけでございます。

お話にありましたように、学校としてはですね、所持を禁止している、何かの理由がなければ禁止している状況でありますけれども、かなりの生徒が持っている。今回、学習状況調査で調べましたのにはですね、確かに自分のとやなくて家族の方のを……

〔15番「そうそうそう」〕

借りてして……

〔15番「そうそうそう」〕

おるといふようなのまでですね、入ってまいりますので、実は、実際にやっている生徒とかは6割とかいう数字が出てくるんですね。（「はあ」と呼ぶ者あり）

しかし、あの、しかもですね、中学生でも長い子どもは、もう3時間、4時間というのが、月曜から金曜の平日において、そういう子どももいるわけですね。ですからそういう面では当然、学習時間にも影響しますし、その生活がそこに振り回されているというような現状も予想されるわけですね。

したがいまして、先ほど言いましたように、その家庭との連携、そしてそういう生活の面を、また学校で指導しないといけないという形になって悪循環になりますのでですね、そう

いう面でも学力との関係、あるいは家庭習慣との関係ということで今後非常に大事になってくるというふうに思っております。

○議長（杉原豊喜君）

15 番末藤議員

○15 番（末藤正幸君）〔登壇〕

はい、わかりました。

まあ、そういうことでですね、まあ、指導をしてやっぱりけじめをつけさせる。ゲームをするなどとは言えないと思いますのでですね、けじめをつけて、やはり時間も若干短縮していくような、そしてまた、やっぱり授業というんでしょうか、勉強にも取り組むような指導をぜひともお願いしたいと思います。

次に、ここにもまた新聞でございますが、これ、無料通信アプリっていうんですかね。N S N、SNSか、すみません、SNS。

そういうようなところでですね、今、無料通信アプリということで、無料でありますので非常にそして使い勝手がいい、そして非常に便利だというようなことで、大人でも非常に使われているものでございます。まあこれがですね、やはり今インターネットのできる環境ですかね、Wi-Fiとかでも通じとったら、やはり今ポータブル音楽プレイヤーっちゅうんですかね、ミュージックプレーヤー、そういうようなもんでも、まあゲーム機でも、今、一部されるのがあったと思います。

そういうことでスマホばっかしじゃなくて、携帯電話ばっかしじゃなくてですね、そういうようなもんでも通信ができるということになってまいりました。このことでですね、やっぱりいいものをいいものに利用すれば非常にいいわけでございますが、やはり何でも表と裏とあるっていうんですかね、表と影があるっていうようなことで、影の部分も出てくるわけですね。

その影の部分の対応としてですね、まあこれはもう高校生ですけども、ある県外の高校だったと思いますが、そういうふうないじめとかですね、そういう問題があったから使用を禁止した、そういうアプリをもう使用してはいけませんよ、通信アプリはもう使ってはいけませんよというおふれ、通達を出したわけですね。

そういうことで、それに対してやっぱりブーイングが結構出たわけですね。やはりそれは、やはり、それにもうせっかくこっだけ普及している、大人も便利に使ってそれを子どもに使うっていうのは、これはもうどだい無理なことだと思うわけですね。非常にこうグループで話すとか、そういうことをすればですね、非常にこう連絡もつきやすいし、情報も伝わりやすいというようなことでございます。だからこそ使わせて、なおかつ悪い使い方をしないような指導をするとかですね、そういうことをやっぱり今から取り組んでいかなきゃいかんとかやなかりかと思うわけですね。

それで、ちょうど新聞に出ておりました、これを出したあとに載ったんですが、8月の26日やったか、ちょうど出すぐらいのときですかね。ネット犯罪から子どもを守れというようなことで、これは各そのアプリのメーカーが、そういうようなところに守るためにですね、犯罪から守るために、メーカーがそういうようなことをやって今から取り組みますよというような記事でございます。

まあそういうことで私も以前新聞で見たとおり、そういうメーカーが学校に来て、その通信アプリのメーカーがそのアプリの使い方とか仕様を、こういうふうに使いなさいとかですね、中身をやっぱし、よく、メーカーですから中身がよくわかっているわけですね。それでそれを、メーカーの方が学校に来て、学校の中でそういうふうな指導をする。また牛津のほうでも、あるメーカーと学校と取り組んで、そういう、またこれもソフトをつくったりして、事業を展開していくとかですよ。

そういうふうにして、今メーカーと組んだ授業が、結構、何というんですか、ああいうふうなところで情報として流れてきております。

まあそういうことで私もこれを制限するよりも、そういうふうにしてちゃんとした使い方を指導したほうがいいんじゃないか。やはり小学校よりも今は特に中学生ですね。中学生もこの犯罪が起きるとか問題が起きるのは、中学校3年から高校1年生になったそのちょうどその境目ぐらいが、非常にこの問題が多いそうですのでね。やはりちょっと解放された分があって、また、高校になると自分がそういう、それを持てるとかですね、自分の持てるとかっていうのもありますので、やはりその変わり目対策として、まあ中学校3年生でもいいのですですよ、対象にしてそういうふうなメーカーから来て、やはりメーカーはですね、やっぱりその自分のところのそういうアプリがですよ、悪いほうに使えるために開発するっちゃうことはないわけですよ。やはり良いほうに、良いほうにというふうに持っていきたいというのが、メーカーの考えと思います。(発言する者あり)

そういうようなところ、そういう考えがないかメーカーを来ていただいてですね、そういうような教育をする考えがないのかをお尋ねをいたします。

**○議長（杉原豊喜君）**

浦郷教育長

**○浦郷教育長〔登壇〕**

大変、大事な課題だというふうに思っております。

一つ例として挙げますと、6、7年前からノーテレビデーというのがありまして、ノーテレビデーをやろうとすると、中学生は非常に率低いわけですね。当然だと思います。

ところが、小学生、一緒にこう帰って読書しました、手伝いをしましたなんて、低学年からずっと非常に高いわけですね。それで4、5年しましたときには、中学生もかなり高い率でできているんですね。この、スマホ初めですね、この機器類を、扱いについては、やはり

年齢に応じた指導を積み重ねないと非常に危険だなという思いも片方には持っております。それが一つでございます。

それで、実はこれは今お話にありました、企業の方を招いてですね、(モニター使用) 中学生対象の外部講師、企業の方に来ていただいていたの携帯安全教室。確かにいろんな企業の方が、こういう講師としてですね、出向いてもらっております。今年で言いますとですね、中学校は企業の方が3校、それから武雄警察署から1校、それから佐賀県青少年育成県民会議の方から1校というように、どの学校もですね、このネット等の情報モラルの学習の講演会をですね、開催を予定してますし、実際にやったところもございます。

そして同時にですね、この企業の方の話は保護者の方も一緒に聞いてもらってまして、この一緒というのは非常に大事なかなというふうに思っております。(「うん、そうですね」と呼ぶ者あり)

半数近くの小学校も同様に、こういう情報モラルの学習しております。したがって、必ずですね、やっぱり非常に魅力的な要素があるわけでありますので、なかなかそれを抑制するっちゃうのは非常に難しいわけであります。したがって、繰り返し、そして学年に応じたですね、指導を積み上げ、積み重ねないといけないだろうというふうに思っております。

#### ○議長(杉原豊喜君)

樋渡市長

#### ○樋渡市長〔登壇〕

教育長のあとの答弁は燃えますね。(笑い声)

基本的にはそれでいいと思うんですね。ただ、これどんなにやってもね、多分今、携帯とかスマートフォンでの、例えば犯罪というのは僕はなくならないと思っているんです。これはある意味、対処療法、道具の使い方なんです。これごらんになってもらえばわかるようにね、フィルタリングサービスを設定するとか、ネットスキルを身につけるとかっていうのは、ある意味これつけ焼き刃なんです。私はこれね、このことそのものは、僕は道德の問題だと思っておりますよ、道德の。今の時代の。(「そうそう」と呼ぶ者あり) 要するに、ライン等で早く返信をしなければいけないとかね、もう山のように来てるじゃないですか。あるいは、ネットでなんちゅうんですかね、裏掲示板をつくって悪口を書きまくるとかね。これって、こういった携帯の安全教室じゃなくて、もっと心の根の深いところの話だと思ってるので、これはさっき教育長が答弁申し上げたように、早い段階から道德の中の一環としてこれはやるべきだと思っております。ですので、近々、議長と僕は文部科学大臣に会いますので、それはね、これはきょうの答弁を踏まえて申し上げようと思ってるんですね。そうしないと、いつまでたっても対処療法。

それとね、もう1個大事なのは先ほど教育長からもあったように、これ家庭の問題なんで

すよ。ですのでこれを学校現場ばっかりに押しつけるとね、それはやっぱり学校の先生たちもしんどい。ですので、よく家庭と学校とこれはタッグを組んで、特にこの問題については対処する必要があるだろうと思っています。

そういった意味で、これは便利なね、ものすごく便利な道具でありながら、ものすごく危険な刃物になるということもあわせて小学校の早い段階からね、ある意味これプログラミング教育より大事かもしれない、これ本当に。これこそ保育園からやるような話かもしれないですよ。

そういった意味で、私たちとすればこれはもっと大きな問題として取り上げていきたいし、これはぜひ、先ほども申し上げたように文科大臣にお会いしたときにね、議長と私から直接申し上げようと思っています。（「よろしくをお願いします」と呼ぶ者あり）

### ○議長（杉原豊喜君）

15 番末藤議員

### ○15 番（末藤正幸君）〔登壇〕

本当にありがたい答弁いただきました。

そういうことですね、本当にやっぱりこれはもう保護者、それで子どもさん一緒になって学ばないといけないことだと思います。親だけ一緒になってもだめだし、子どもさんだけではまたこれは無理なことですから。やはり家族で見守ってですね、こういうものからの犯罪を減らすということを取り組んでいただければというふうに思います。

次に行きます。（発言する者あり）

全国学力テストの結果公表についてですね。これは新聞に載っておった記事でございますが、武雄市はですね、もう2年も前からですか、公表していただいております。それで、今度また成績を武雄、大町、上峰が公表したということになっておりますが、大町さんとか上峰さんはですね、学校が1校だということでございます。武雄はずっと学校別に公表して、インターネットのホームページのほうでですね、流してもらっておるところでございます。公表すると答えた武雄市は保護者が市民の結果を知らせ市民総ぐるみで教育を考える機会にしたいというようなことで、コメントも載っておりましたが、この公表については以前も質問があってございました。

そういうことで、皆さん大体のあれはわかっておられると思いますが、ただホームページから資料をダウンロードしたときに、ここにありますが各学校のですね成績、それからその下にその結果を見てですね、改善の取り組みっていうのがずっと先ほどの質問の中でもありました。事細かには書いてありますが、ただ書いてはあるけどですね、やっぱり向かうところは一緒なんですね、大体同じようなことが書いてあります。

やはりその中で一番感じたのがですね、やはりスマイル学習の定着のための通信等で、家庭と地域の連携を図りたいとか、スマイル学習の実施を強化したいとかですね、非常にこの

スマイル学習の取り組みっていうのはですね、非常にこの改善に向けた取り組みの中ですね、各学校ともほとんどの学校っちゅうんですかね、ほとんどの学校全部っちゅうことやなかかもわかりませんですけどね、ほとんどの学校でっていうよりも、ほとんどというか全部の学校で取り組んでありました。そういうことでですね、スマイル学習ってのを非常に挙がっておったわけでございます。

そして今度、学校ではなく市全体の取り組みですね、市全体の結果とそれから武雄市の小学校、中学校というようなことでですね、挙がっております。これがそのホームページからダウンロードした分のPDFの小学校の部、それからこっちは中学校の部ですね。こういうふうに挙がっておるわけですが、この中に、タブレットの配付に伴いICT教育推進委員を増員し、小学校は週あたり3日以上配置すると、こういうふうなことを改善の取り組みの中で書いてあります。これをICT教育推進委員さん、これは今度もう増員はもうされたのか、またはそういう推進委員さんはどういう職務でおられるのかですね。その辺をちょっとお尋ねしたいと思います。よろしくをお願いします。

**○議長（杉原豊喜君）**

浦郷教育長

**○浦郷教育長〔登壇〕**

全国学力調査、学習状況調査の結果公表につきましては3年目を迎えてるわけですが、このICT教育推進委員につきましては今年度ですね、既に配置をしてるわけでございます。小学校、タブレットを配付した関係もありまして、小学校には全校1人配置をしまして、中で中学校に1日行ってもらうこともありますけども、やっぱりタブレットが円滑に稼働するということを目指してですね、今年度配置をしてるわけでございます。そういうことで、極力ですね、先生方がタブレットの具合でどうこうっちゅうことがないようにですね、しているということでございます。

それから学力等についても続けて、先ほどの話の続きでさせてもらいたいと思います。

つまり、公表することが子どもたちの学力あるいは学習状況、生活習慣等の向上につながるという意味ないわけでありまして。そう簡単につながるものとは思っておりません。しかし、ごらんいただいたと思うんですけれども、この正答率等を見ますとですね、やはりほぼ全国並みの成績ということになるわけでありまして。中学生の3年生で若干厳しいところございますけれども、これは前年、一昨年等と見ましてもですね、そう大きく隔たりがあるわけじゃありません。

いろんな状況調査の中で毎年話をしてまいりましたけれども、授業の予習をしているというのは、どうしても毎年佐賀県平均よりも低いわけでございます。しているが青、どちらかといえばしているが赤でありますけれども、県平均よりもやっぱり低くなっていると。つまり全国はもう少し高いわけでありまして、この予習であるとか、中学生ではあります

段目が武雄市の中3、4段目が武雄市の中2、一番下が武雄市の中1であります。いずれにもやっぱり県平均よりも低いと。つまり、学校での勉強と家庭での学習が非常にうまくつながっていないと。家庭ではやっぱりもう少し予習、復習、勉強できるんじゃないかと。これはスマイル学習を始めるときにも御説明の中で申してまいりました。そういう中で、学校によっては、極めてそこの重点的に取り組んでですね、これ高い学校も出てきております。つまり、そういう学校での学びと家庭での学びはつながってきてると。

これが今進めています、スマイル学習が円滑に動きますとですね、そこのところが非常に子どもたちの学びが改善されるだろうということで、武雄市共通する課題としてですね、もちろんたくさんいい面もあるわけでありましてけれども、こういうことを話します中で、校長先生方も経営の方針として家庭との連携等を述べていただいているという状況でございます。

**○議長（杉原豊喜君）**

答弁と質問はもう少し簡潔に。時間的に進みませんので。

15 番末藤議員

**○15 番（末藤正幸君）〔登壇〕**

これは新聞ですが、これは教え込まない授業の成果っていうようなことですね、まさしくスマイル学習だなということで私も新聞を読んだところでございます。これは全国から秋田モデルというようなことで、学力テストの成績が優秀な秋田がですね、いいところっちゃうことではございますが、やはりこう教え込まない授業がやはりいいんだということです。子どもたちに共有をさせ勉強するというところでございます。

次の質問に入らせていただきます。

次に政策一般の中で学童保育、放課後児童クラブというんですかね、これについてですね、お尋ねをしたいと思います。

ここの中の指導員さんですね、指導員の方についての質問でございます。今、放課後児童クラブ、これの指導員さんは現在武雄市で何名いらっしゃるか、またその雇用の形態はどのようになっているか、そして、どういうふうな指導をやっておられるか、簡潔に説明をお願いいたします。

**○議長（杉原豊喜君）**

諸岡こども部長

**○諸岡こども部長〔登壇〕**

放課後児童クラブの指導員でございますけれども、現在ハローワークを通じて募集を行いまして、子どものほうで面接試験を行い非常勤嘱託職員として雇用しております。

現在、正規の職員の方が33名。それから代替えですね、この方が19名働いてもらっております。雇用の形態につきましては1年ごとの契約更新で3年、最長3年間を雇用期間としまして、1年間あけてまた再雇用していると、こういう形で雇用を行っているところでござ

ざいます。

○議長（杉原豊喜君）

15 番末藤議員

○15 番（末藤正幸君）〔登壇〕

はい、わかりました。ちょっと今3年で1年、1年の更新をして3年間が限度と。3年すると退職च्छゅうかクビのようなことになって、また1年間たって再雇用はできるという説明でございます。

この指導員さんですね、やはり学童保育という特性があって、やはり子どもたちが家に帰らず学童保育のほうに行って、ただいまと帰ってそれを出迎えるのは両親でもおじいさん、おばあさんでもないわけですよ。その学童保育の指導員さんが、おかえりということで出迎えるわけです。非常にそういうようなことでは何ていうんでしょうか、デリケートな仕事じゃないかというふうに思います。

そのためにもやはり1年1年の研修を受けて、そして自分のそういうような指導力を研さんしながら仕事に当たっておられるのが、そうじゃないかなというふうに思います。あるときには先生の役目、学校の先生の役目もせにゃいかん、あるときには親、両親の役目もせにゃいかん、あとはまたね、ちょっと友達としてのつき合い方もせにゃいかん。やはり子どもさんたちに非常にそういうふうな意味合いではですね、1年、2年のつき合いよりもやはり3年、4年、5年とですね、長期にわたるつき合いっていうのが必要と思うわけですね。

そういうようなことですね、この指導員さんの雇用体系ですね、これをもう少し考えていただいて、3年でもうストップよじゃなくてですね、やはりこれを撤廃するか、まあ長期にもう少し長期にわたって採用できるようなですね、方法はないものかですね、というのは、こういう任期つきの制度、雇用形態というのはこの何ていうんですか、学童保育には非常にそぐわんと思うわけですね。その辺どうでしょうか。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

確かに御指摘どおりですよ。3年間勤めて1年、こう空白をしてね、また雇えるといったら、これもう何か制度のかいくぐりのようなもんなんですよ。したがって、御指摘を踏まえまして改めます。

最長5年にします。5年にして、まあ3年間は継続をまあ当然して、あとまあ1年更新ですけど。ですが最長5年までします。それはお約束します。

それともう一つ大事なのはね、本当にこのままの学童保育でいいのかなっていうのをもう一回議会もよく考えたほうがいいと思うんですよ。

というのはね、今までこれよく山口裕子議員さんからも質問がありましたけれど、本当に

こう預けっぱなしになって、しかも、もうこれは言葉が非常に悪いかもしれませんが、飼い殺し状態になってるところもあるんですよ。非常に暑い所でね、なっているところもある。それと、たった2人のその指導員が多くの子どもたちを本当に見れるのかということもある。で、そういった中で本当にこれはいいのかなということなんです。

だから対象の学年の広がりや国がこう強制してやるっていうのは僕はこれいかなものかなとは個人的には思いますが、それはそれとしてニーズがあることもこれは厳然とした事実ですので、女性の社会参加も含めてね、ありますので。ただし一旦ここで1回大きく見直したいと思います。

それと、あり方についても今直営でやってるじゃないですか。これこそ民のすぐれたノウハウを取り入れて、これこそ官民一体でやったほうがね、よっぽど子どもたちにとっていいのかなと思って、何人かの議員さんがうなずかれていて、何人かの議員は居眠りされてますけれども、(笑い声) 本当そう思いますね。

私はだからそういうふう子どもたちの視点にもう一度ちゃんと立った上でね、あるべきその学童保育を、これもう武雄モデルってなるようなね、モデルを議会と一緒につくっていききたいなど。今の武雄市議会だったらできますよ、できる。「はい」と呼ぶ者あり) ですので、ぜひそういった意味でのいい学童保育のモデルをつくっていく。これはね、官だとか民だとかって言う場合じゃなくて、それこそ一緒になって取り組むような話。

それともう1つ最後にしますけれど地域、地域ですよ、地域の皆さんたちも非常にかかわりたいと思ってる方がいらっしゃるんですよ、おじいちゃん、おばあちゃん世代の。ですので、そういったことも含めてもう1回見直したいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

15番末藤議員

○15番（末藤正幸君）〔登壇〕

次の質問に移りたいと思います。

駅の駐輪場の維持管理についてでございます。

これは三間坂駅の駐輪場、それから永尾駅、それからこれが高橋ですね、これが北方駅です。こう見てもらうとおりですね、非常にさびが進んだり、この三間坂駅は穴がほげとるわけですよ。

それで、もうこの管理、維持管理はどうされているのか、それからこれも塗装時期か、もうこの鉄骨はもう腐食しておりますので立て直しが時期じゃないかというわけでございますが、これはどうなっているかお尋ねをいたします。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

そこ武雄市長とも書いてあるんですけども、ここ結構ランニングで僕走ってて、これはひどいなと、腐食がひどいなと思っているところが、例えば三間坂だったり永尾だったりします。そこは早急に修繕、改修をします。危ないです。

○議長（杉原豊喜君）

15 番末藤議員

○15 番（末藤正幸君）〔登壇〕

ありがとうございます。ぜひ、これは本当に危ないですので、よろしくお願いします。

道路関係、これはあそこ、堂島の交差点ですね。これいつも冠水する、ちょっとの雨で冠水します。これどうにかならんもんかといつも思ってるわけでございますが、どうでしょうか。答弁をお願いします。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

（笑い声）なりません。（笑い声）

○議長（杉原豊喜君）

15 番末藤議員

○15 番（末藤正幸君）〔登壇〕

いつもちょっとの雨で通行どめになるわけですよ。それどうにかならんでも、その国がどうかするか県がするかとか、いろんな話は出てませんか。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

出てません。（笑い声）

○15 番（末藤正幸君）〔登壇〕

はい、これで私の質問を終わります。ありがとうございました。（発言する者あり）

○議長（杉原豊喜君）

以上で 15 番末藤議員の質問を終了させていただきます。